

'06 のべおか

第九

のべおか第九だより (第383号)

2006年9月30日 (土)

○発行 のべおか「第九」を歌う会

○事務局 (延岡総合文化センター内)

〒882-0852 延岡市東浜砂町611-2

電話 (0982)22-1855

<http://www.horita.jp/dai-9.html>

---- 出席カードには会員番号を。練習中のケイタイ着信音はオフに。----

本日の内容	前回の状況	会員数	出席数	出席率	自己採点
練習は4つに分けて行います。 佐藤先生の指導を復習 ◎ A (237~330小節) p.9~17 ◎ B (411~654小節) p.20~33 ◎ C (655~762小節) p.34~43 ◎ D (795~920小節) p.46~58 12月9日まであと 70日	◆ ソプラノ	28人	26人	92.9%	61.5点
	♥ アルト	56人	45人	80.4%	67.4点
	♣ テノール	22人	14人	63.6%	67.8点
	♠ バス	22人	16人	72.7%	67.5点
	● 合計	128人	101人	78.9%	65.6点

@佐藤先生の指導

(9月23日：大地讃頌)

● 3 【たがやしてー たねを まく つちー～】

時間の都合で小刻みに止めさせていただきます。まず何を言いたいかということ、「土の歌」でしょ。“土”という言葉が出てきたときに丁寧に。普通に“たねをまくつち…”ではなく“たねをまく土…”と丁寧に。



そここのところ (たねをまくつちー) はいいんです。もっと弱いところから始めて、もっとだんだんじわじわcresc.をしてほしいんです。今度は強弱のことを考えてみてください。もっと弱く始めてほしいんです。

もうちょっとcresc.してもいいんですけども、今度はもうちょっと高級なことを言いますと、ソプラノ、アルト、テノール、バスと4声、4つの音がどういう配分状態なのかということを考えていただきたい。つまり、合唱では自分のパートだけを歌うんじゃなくて、ほかのパートがどうなっているのかというのがわかるとい

うのが熟練なんですね。そうするとこうなっています…ソプラノがだんだん上がっていく、バスがだんだん下がっていくのです。そういうことを頭においてご自分のパートを歌って欲しいんです。合唱は和音の芸術ですから、それを上手に意識してやってください。歌詞、強弱、パートのこの3つを気をつけて歌ってください。

……バスなんですけども、“たがやしてー”と下がっていくところをもうちょっときれいに。そこが第2の節だと思って。ソプラノが第1の節。

● 4 【ひとみな のいのちのかてをつくりだす つちー～】

次の“たがやしてー”の前でしぼんでしまうと、全体の音楽の造りが小さくなってしまおうですね。“つちー…”とやっていてそのまま“たがやして…”といくように。気持ちをつなげてほしい。だから、ディミニエンドなし。そしてここの“つくりだす”は“作っていく”という感じが出てほしい。そういうものとcresc.を合わせてほしい。言葉と音楽の表現が合うようにするのが作曲でも大事なことだし演奏でも大事なことなんです。“つくりだす”の和音もだんだん出来上がっていくBuildしていくというのが和音の変化でもあるんですから、そういう感じをcresc.に込めてほしいです。

● 6 【のしみのたね かなしみのたね ともかくもー たねが～】



ここは“たのしみ”と“かなしみ”が対になっているわけですが、でも、“かなしみ”をもっと弱く。そしてできれば音色をもっと暗くするととっても効果があります。コーラスでただ弱くなるだけでなく音色が出るというのはとっても素晴らしいことですね。むしろそれを意識して前（5ページの“たのしみ”）を強くしていこうという意識を持ってください。

● 7 【いのちだー あさ あさ ほしを見て～】

“1,2,3,あさ…”なんですけれども、それではいつくるかわからないので、“……3,”で指揮棒が止まっているんです。ですから指揮棒が跳ね上がったところが“1,”です。……この“ほしを見て”はcresc.してdim.してひとつの弧があります。そしてこの次の“ほしを見て”はレガートで凄く皆さんはきれい！それが聴かせどころだから、この“ほしを見て”はcresc.してdim.は姿勢を出して。そういう感じで。……“あさ あさ”はもっとスタッカートをお効かせてください。それは次の“ほしを見て”をきれいに聴かせるために。そしてそれはさらに次の“ほしを見て”をさらによく聴かせるために…。……最初の“ほしを見て”をもうちょっとレガートで。その次にくるやつの前触れですから、同じようにレガートで。楽譜に書いていない強弱というのはたくさんあるんですから。

● 8 【ほしを見て 野良にでる はたらいて はたら～】



ソプラノとアルトは“はたいて”“はたらいて”と2つありますよね。これは2小節単位でcresc.していくというか、気持ちが高まっていくように。そしてテノールとバスは同じような歌い方でやってほしい。そういうふうに4声が2声ずつ分かれていっているのですが、次の“あせして”では一緒になりますよね。ここで混成4部合唱が一番良く鳴るようになっている。そこで良い響きがワーンと出るように。

● 9 【いて あせして 夕ぼしを～】

“あせして”というところのffが、混成4部合唱のffとしてはとっても貧弱です。一番鳴るところですから、ここでその感じが出て欲しい……“夕ぼし”(アルト)“夕ぼし”(テノール)“夕ぼし”(バス)と下がって行って、cresc.が書いてありますよね。それで次のソプラノの“かえる…”が呼び込まれるようになってないとおかしいんです。

● 10 【見— たねをはぐく—む～】

“たねをはぐく—む”と次の“はぐくむつちこそは”、そして“たのをまくものの”と伴奏は次々と和音が変わっていきますよね。転調していくところ、和音が変わっていくところと強弱が始まるところが一緒になんないと。

● 12 【だのぞみだ そし—ていのりだ そし—ていのり～】

“そして”となっている直前に“(f)”と書いてあるんです。だからこの部分までもっとcresc.してほしいんです。そしてここでストツと落とす。その変化が欲しいんです。……このようにpと書いてある部分は、pが欲しくて本当に書いてある部分とcresc.を効果的にするためにしたる所とあるんです。今弱めた所は本当はこんなに弱くする必要はないんですけれども、クライマックスに至るcresc.を効果的にするためにpで弱くしてあるんです。……“いのりだ…”と次のページに行く部分でffになります。そこは絶対に指揮を見てもらわないと。……ここは練習しておいてください。強弱が付かないと! じゃ、もういっぺんやって先に行きます。うまくいってなくても(笑)。

● 14 【みのる— まいねんの— やくそくの— 不思議～】



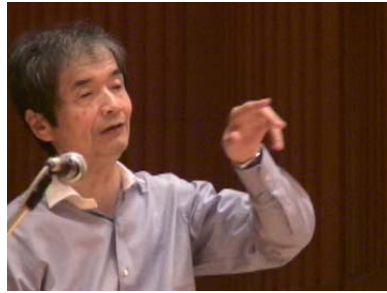
感心したのは“まいねんの”の“ん”が無くなっちゃわなかったこと。そして“不思議さよ…”とアカペラになる部分、ここはもうちょっと弱く、そして発音を神秘的にしてほしいんです。“ふしぎさよ”の“し”とか“さ”というサ行を利用して。それはもっと弱くないと出しにくいですし、そういうところはテンポも遅くしたりしますので、尚更こちら指揮を見てください。そのときの気分ですから(笑)。とくにここは無伴奏、アカペラですから、それがもろに出てきます。

● 18 【ああ だい地 踏んで みて 寝ころんでみて— たしか～】



もっと爆発的に出ててください。このへん(頭)を引っ張られて出るんじゃなくて。……重いんです。もうちょっと颯爽とした感じで出ててください。指揮棒を振り下ろす感じではなく、振り上げるような感じで。どちらも同じと思われるかもしれないけど違うんです。それをまず1つ目の意識として。そして、たとえば“寝ころんで”とあるでしょ。この“ろん”の部分のをうまく乗っけてね。それからね、すごく単純で同じような節が転調を重ねていって、その変わっていくときにオーケストラではシンバルがパーン! と鳴ります。歌うときにそういうイメージを持って欲しいんです。…まだいろいろありますけどね(笑)。

● 22 【おぞらの一 ほしを あおいで la la la la - ほしを あおいで～】



2つ注意。少し遅くなるんです。それと“ほしを あおいで”というところは、出来るだけ地平線の向こうにビューっと声をとばすような、背筋を伸ばしたようなそういう音で。

● 24 【く たかく あおいで～】

この“たかく あおい…”の部分にアクセント“>”書いてありませんか？

● 27 【つちーを まもろーうよー そこのつちーをー～】

そのフェルマータですけれども…指揮法の教えるところによれば“つちー”で伸ばして“…3”なんですけれども、それでは僕の気持ちがおさまらないので（笑）、“2”をこっち（こちらか見て左下）に付きまして、右下。これはまだ“2”なんです。それをスッと左下に動かしたここが“3”なんです。そして振り上げたところが“…ちーい…”なんです。譜面をよく見てください。“Un poco sostenuto”と書いてあって下の段の1拍目に“Tempo 1”。普通こういうのは4拍目からなんですけど、そこからやると音楽がちっちゃくなっちゃうんです。だからフェルマータの“…4”は実際のテンポよりは遅くなっています。壮大な感じにしてほしいんです。いいですか?! ……それから“このつちーを まもろーうよー”は狂ったように。狂ったといっても音程は狂わないように（笑）。

● 71 【ははなるだいの ふとこーろに われらー ひとの子のー よろこびはーあ～】

前奏はピアノの譜面のために書いてありますので、オーケストラは全然違います。

……“よろこびはーあーる”と気持ちをつなげて次を引き込んでくるように。そしてもうちょっと弱く始めてほしいんです。弱い所からだんだんだんだん強くしていくというのが基本構造ですから。

● 74 【へいわなー だいの地をー しずかなー だいの地を だいの地をー ほめー～】



“しずかなー”というところは、もう1ランク弱くしてください。言葉が“静か”ですね。それとさきほど申し上げたようにサ行が入りますから、大変それが効果的にできる部分です。ですからこの前の“へいわなー”は今ぐらいの強さでないとだめです。そしてピアノシモが終わったすぐに強くなりますが、ppの強さから

だんだんだんだんcresc.して欲しいんです。cresc.も途中で目一杯になっちゃうようなので、そのへんを計画的に。階梯(かいてい)導入といいます。

……男性の“だいの地”の“地”、4拍目が滑らないように。

● 75 【よー たたえよー つちを われらー ひとの子の われらー ひとの子の だいの地をー ほめー～】

男性のff、“われらー”は「ffというものが出てこないとおさまらない!!」というものが本当はいいんです。ほかの方もそう思ってください。人のパートを導き出すというのも大事なんです。

- 76 【よ ほめよ たたえーよー はななるー だい地をー ははなるー だい地をー たたえよ ほめ〜】
女性なんですけども、“だい地”…“だい地”…“だい地”と大きくなっていきますね。それをひとつひとつ階段をのぼっていくような。
- 77 【よー たたえよ つちを ははなるだい地を ああ たたえよだい地を ああー〜】



男性“たたえよ”もっと強くていいですよ。
……最後の“ああー”これ以上伸ばすかもしれません（笑）。そういうときにはカンニングブレスでね。

（第九）

その付近の注意…●総合・◆ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス

その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♠テノール・♠バス

★…お話

（ドイツ語ウムラウトの発音“ö”をカタカナで“オ”と表記してあります。また、ほかの部分やパートの注意でも全体に関連がありますので、読み飛ばさないようにお願いします。）

- ★ 237 【お話し】 ご存知でしょうけれども、10年ぐらい前なんですけれども「第九」でベーレンライターの新しい版が出ました。ベートーベンの演奏に速さや強弱に今までは誤りがあると。それから第九の演奏がずいぶん変わっちゃったんですね。それをどのようにやるかというのが大変な問題なんですけれども、私は私なりに作曲家としての立場から考えてやりたいと思います。



いろいろあるんですけども例えばベートーベンはこの曲ばかりでなくてテンポが速すぎるところがあると昔から言われている。それも作曲家としてわかるんです。書いたときというのは気持ちがすごく高揚してるんですね。僕の時でもそうですけど、しばらくすると平常心になるんですね。そうなるのだいたい速すぎるんです。

それと作曲の実質原稿と比べてとか初版と比べてると、作曲家というのは構成というものが意外といい加減なんです。そのつもりはないんですけども、結果的にそうなっている。例え

ばエロイカシンフォニーの終楽章の部分も8分音譜=か4分音譜=わからないので、倍のテンポのものもあるんですけども、僕の曲にもあるんです。実はある出版物で4分音譜=84というもので出て行くんですけども、ちょっとアレンジしたものがその後半に出てくるんですけども、それは2分音譜=84なのです。それはどうしてかっていうと、それは4分音譜なんですけども構成のときに目が踊っててですね、当然4分音譜だと思うから2分音譜で書いてあってもそれが黒く見えちゃうんです。それ放っとくと…ね。

もっと凄い事がありました。若人の歌というのがありまして、その1楽章でしたけど、合唱譜の譜面というのは上に合唱譜があって、下にピアノの譜面がありますね。それで両方にテンポが書いて

あるんです。上が126って書いてあったのかな、それで構成しているうちにさっき言いましたようにだんだん平常心になってきますから「126では速いんじゃないか?120だ」と。下に126と書いてあるのは見えなかったんですね。そのまま世の中に出ちゃった(笑)。そしたら電話がかかってきて「ピアノだけ126でいくの?」(笑)。厳密に見てるとは限らない。裏に事情があるんですね(笑)。

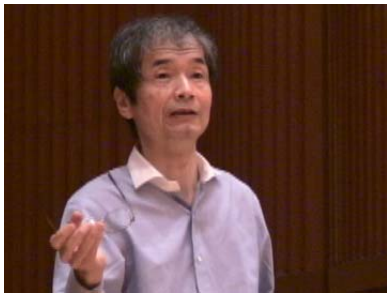
…今回はそういったことを作曲家の立場から考えて「第九」をまとめたいと思います。ほかのこともありますけども、それはその都度申し上げることとして私の考えでやらせていただきます。……(練習終盤に)作曲家が書いた原稿をそのままやるというのは正しいとは限らない。だから「原稿が出たからそのとおりだ」という主張もわからないんです。

- 238 【Freu-del!】 …でない?、じゃ次からいきましょう。もうここは終わり(笑)。
- 257 【Dei-ne Zau-ber~】 ここはテノールが凄く悩ましいところですよ。でこぼこが付いているんですけども、これは自分なりにはわかりますけども、ベートーベンが本当にそういう意図で書いたのかどうかはわかりません。…「土の歌」より上手いですね(笑)。
- 284 【Ja,】 強く!ですね。
……Ja,は強いんですけども、もうちょっと気持ちのこもった“Ja,”にしてください。
- 289 【_ wer's nie ge-】 “nie”というのがありますね。そのところにsfが書いてあります。これは大事ですから、強く出してください。sfも、ベートーベンが音量的に欲しいところと、はっきり発音してほしいとか、心理的な意味をしっかりとってほしいとかいろいろな意味がありますし、私たち作曲家もそうなんです。
- 290 【konnt, der steh-le】 問題は、このdimの位置なんです。これは3拍目から書いてありますが、そこからするとあまりにも距離が短くてきれいにならない。dimじゃなくて急に下がっちゃうんで、ここの1拍目“konnt,”からしてください。1小節かけてdim。
……dim.が速いんですね。だんだんだんだん弱くしてください。
- ★ 290 【お話し】 ベートーベンが苦労していることがよくわかるんです。こういうように同じ節を繰り返していくのを有節歌曲というんです。節が竹みたいにつながっていて1番、2番、3番…と。そういうのが一番使われているのは校歌とか社歌です。そういう作曲を頼まれるとそうなるんですね。でも校歌や社歌では1番と2番の同じ箇所が歌詞では反対の表情を要求したりする。アクセントも違ったりする。例えば“春”とか“秋”。春のときは非常に躍動してくるが秋のときはしおれていく、それが同じメロディ。この「第九」でベートーベンも変えられないもんだから強弱だけ変えているんですね。だからここは強弱が非常におおきな意味を持つんです。だからここでは「立ち去れ」という感じが出てくるわけなんです。



- 313 【Küs-se gap sie~】 …いいと思います。何いってるかわかりませんが、みなさんだけじゃないですね、だいたい悪くいえば猿山で猿が騒いでる(笑)。キャアキャアキャア…(笑)。プロでもそうなんです。あんまりここで発音のことを言っても意味はないんです。そんな中であつても

良かったのはアルトの“steht”(323,325)。そういうところがほかの所にも出てきますけども、アルトのようにやってください。



- 411 【Lau-fet,~】 ここは皆さんの譜面ではどうなっているかわかりませんが、Allegro assai vivace alla marcia と書いてありますが、alla marcia(行進曲風に)というのはベートーベンが下のほうの楽譜に書いてあるんですね。速度記号のところには書いてないんです。ピアノ譜では Allegro assai vivace alla marcia まで書いてあってテンポが84となっています。(合唱譜では) Allegro assai vivace と書いてあるんです。これは実は速いんです。従来やられているより倍ぐらい速いんです。それで私はここを速くやるつもりなんです。
……歌っていただいて非常に良かったですけども、実はベートーベンは今歌われた所に強さを書いてないんです。これは作曲家としてよくわかるんですけども、ベートーベンは忘れたのじゃないです。これは演奏のその場に任せようということなんです。合唱やられている方は夢中で気がつかないかもしれないけど、ここにくるまでにテノールが延々と歌ってきています。そして男性合唱が入ってくる。それが急に“闇から牛が出てくる”じゃおかしいんです。弱く出てだんだんcresc.していけばいいかっつたら、まあそうなんですけども、それではここに合わない。だから「最初はmfぐらいからずーっと入っていつのまにかffになったようにほしいな…」書かなかったんだらう…と。ですからここはmfぐらいから入ってください。そして4小節ぐらい行って“freu-dig,”(415)そこでf。そこになにも書いてありませんけども、sfにしておいてください。後ろのほうもそうですね。
- 424 【freu-dig,~】 この“freu-dig,”“freu-dig,”“freu-dig,”がズれていると思います。これはカッコリいったほうがいい。バスが“freu-dig,”というとテノールが“freu-dig,”それを導きだすような歌い方がいいと思います。全体でひとつの音楽になるようにしてください。
- 431 【-gen!】 最後に切った“-gen!”の音ですけども、そのところは合唱など構いませんで、オーケストラ、バイオリンのほうに向かいますから、うまく切っておいてください。
- 543 【Freu-de,~】 ベートーベンが書いてあるsf、“E-ly-si-um,”(549…)とか“feu-er-”(553…)とか…そういうところを気をつけて歌っていただきたいと思います。とくに“feu-er-”とかはそういう高さで十分その効果が出ますし、意味も持っている。そういうところを頑張りたいんです。“E-ly-si-um,”なんてのは私たち外国人はピンとこないんですけども、ベートーベンはそうしてほしいのですから、今の皆さんの演奏よりは効果を出していただきたい。そしてここはコーラスのほしい2/3の部分、第一部の最後のところです。歓びのテーマの最後だと思ってここは頑張りましょう。……今歌っておわかりになったと思いますが、“Brü-der,”という言葉はsfが効きにくいんですね。だからベートーベンがそう書いたのはこの曲の理念からいって「兄弟たちよ」という意味でsfにしているんだと思います。実際には出ないです。それを出そうとすると変なふうになっちゃうんですね。そういう部分と本当に音響として強く欲しい所といろいろ混ざっている…とそういう事を申し上げたいです。
- 596 【schlun-gen, Mil~】 ここから合唱の部分の中間部となって遅くなる。第二部になりますね。遅いんですけども、その中で特に印象的にやりたいと思いますから

- 617 【Va-ter】 ここにsfが書いてありますが、こういうのは大事な言葉が出てきたからだと思いますね。だからここは先ほどはあまりsfにされていませんでしたけど、特に（強い）sfにする必要はないんじゃないかと思います。
- 632 【nie-der,】 スタッカートが書いてありますね（(634)も）。これはもっと短く。ただこのスタッカートは4つありますけども、最後の“nen?”(634)が言葉との関係から一番効果的だと思います。歌の中の2小節目に出ているスタッカートをもっと出してください。
- ◆ 635 【Ah-nest~】 やっぱりソプラノのここは物足りないです。cresc.つけますけど、まだ音楽が足りない。
- 635 【Ah-nest~】 ここにppがあっけずーっとcresc.して“Welt”(638)のffいたるんじゃないと思うんですね。この前に休みがありますが、急にここで注意を喚起するようにベートーベンを入れてあると思うんですね。
……だいたい構図としてはそうですけども、今よりcresc.がもっとあって内容が充実していた方がいいと思います。音楽がないです。それもっとcresc.をきれいに。（←~643小節まで）
- 640 【ü-berm~】 ここにcresc.が書いてあります。ppから始まっていますが、そこは同じ和音で高く上がりますからどうしても大きくなっちゃうんで、もっと弱くしてください。そこはppの和音からだんだん半音ずつ上がっていくのですから、そういうものをイメージしてください。
- 646 【woh-nen,】 この“who-nen,”ですけども、コーラスだけがsfになってるんですね。やっぱりこれは音楽としてガーンと欲しいんじゃないなくて、言葉の意味の強調だと思います。



- ★ 655 【お話し】 ものすごい曲です。ここの2重フーガですけども、“Freu-de, schö-ner Göt-ter-fun-ken,…”というのと“Seid_ um--schlun-gen,…”の2つのテーマにして、作曲家としてテクニックが凄いですし、音楽も凄いです。それは大尊敬するんですけども、管弦楽法の本にコントラファゴットの例が出て、こんなものできない! と。管弦楽法はこの曲に学んではならない…と（笑）。本当にしたい放題なんです。コントラファゴットなんか指がこんなに広がっちゃって、しかもプレスがついていないですね。僕らが書いたら、たちまちオーケストラに拒否されちゃうんですけど。はあ…（笑）。さてその2つのテーマに時々“Freu-de!”が入りますが、構造的にはカンフル注射です。こういう多声的な書き方は言葉が重なりあっていきますから、上手に演奏しても言葉はわからないんです。僕らの日本語の曲でもわからない。そういうことよりも音の構成物としてやるようにしてください。
- 742 【Such' ihn】 バスから入って、テノール、アルトと歌ってここ。ベートーベンがpと書いてあるんですね。本当はおかしいわけですよ。長いcresc.が来てるんですからね。そういうふうにして先ほど申し上げた(411小節)現場にまかしてしまう場合と書いてある場合があります。なにが心の揺れがあるんだと思います。みなさんの譜面にはないのでしょうかけども、ベーレンライター版には書いて合います。

♡ 758 【ein_】 ここは今、C(ツェー：ド)で歌ってらっしゃる。それでいいと思います。僕もそのほうがいいと思います。ベートーベンの譜面ではCis(チス：ド#)なんですね。木管とは合わなくて、かなりの音楽学者が「ここはCisではなくCだ」と。この和音進行だとCにする場合とCisにする場合があるんですね。コーラス書いたとき、ベートーベンはおそらくそちらを先に書いたのかCisにしたんだと。そして木管を書いているときはCを書いてしまってそれを合わせるようになってしまった。現実はこのとき耳がほとんど聴こえなかったんですね。自分の曲でもあとで暫くして録音聴いて気がつく事もありますし、なにもかもわかっているということはないんです。

○ 759 【lie-ber】 ここが強すぎるんです。pです。この前で“<>”はいいんですが、まだ大きい。

◆ 762 【-nen.~】 ソプラノ、低いんです。

○ 762 【-nen.】 フェルマータまではテンポで。

○ 916 【-ter aus E-】 どうして? どうして!? なにか1小節増えている。ここは3拍子ですよ、ここは。…
■糸井先生「2年前を思い出しましょう。」

○ 919 【Göt-ter-fun-ken! Göt-ter-】 ここから“ターンタタントン、ターンタタントン”と2回目がうまく出てくるように歌ってください。

◆とちゅうからきたので、みなさんからのりおくれてしまいました。早く追いつかなくては…。

◆とてもたのしくうたえました。

◆つかれた一ふう。

◆佐藤先生のご指導につていくのはとっても大変だけど、とっても面白く楽しかったです。(MMM)

◆佐藤先生、ありがとうございます。(夢子)

◆糸井先生、ピアノの伴奏お疲れさまでした。本当にお疲れさまでした。作曲者の前だと緊張とか強かったのではと思います。今日は第九はとまどう事が多かったです。土の歌だけなら90点くらいだと思います。また頑張ります。

(Mike)

◆今日は疲れました。でも興味をひかれるお話ばかりでとても良かったです。佐藤先生の人柄がとてもあらわれていたように思います。(セロ弾きのゴーシュ)

◆先生の指導はとても楽しかったです。

◆今日は佐藤先生の指揮でとまどうもありましたが、それぞれの先生で個性があり、また違った味の

第九が仕上がるのだなあと思いました。楽しみです。

◆作曲者ご自身を目前にしてのカウンタータの練習、ただそれだけで感動してしまい、無我夢中で先生の指揮の動きで歌った。今日の日には絶対忘れない。“土”をたたえる宗教曲、感動させるゾー。(m♪)

◆感動でした!!

◆流石、作曲された先生、佐藤先生の導入からの指揮はとても丁寧で、毎年指揮者の方、個性豊かで楽しいです。今ここで歌っている瞬間、本当に喜びでした。糸井先生、お疲れ様でした。ありがとうございました。

◆練習する程、上手になりたいと思います。(ナツガール)

◆「土のうた」家でも学んできたので、より覚えることができました。とても感動でした。先生方、皆様、どうもありがとうございます。

◆土の歌は佐藤先生の指揮のもとで歌うことが出来、最高でした。とても感動しました。

◆佐藤先生、ご指導ありがとうございました。土の歌は流石、気持ちよく歌えました。チケットを頂

きました。多くの人に来ていただくよう頑張りましょう。(ブンちゃん)

◆みなさんについてゆくのはまだまだですが、練習が毎回楽しいです。今日は特にフーツ!

◆佐藤先生の指導とても素晴らしく勉強になりました。(M.Yoshimoto)

♥竜巻にあわれた方、お見舞い申し上げます。自然災害、本当に恐ろしいですね。今日の佐藤先生のご指導、楽しみにまいりました。作曲者に直接ご指導いただく幸運をうれしく思います。今年の細かな指導を早く自分のものにしたいですね。(オバタリアン)

♥今日は佐藤先生に会えて良かったです。土の歌、本当にすばらしい名曲ですね。

♥土の歌のレッスン、佐藤先生の指導は自分の心の意にそってすてきな指揮だった。

♥土の歌 すてきですね。やはり作曲者のご指導はすばらしいと思いました。(スピカ)

♥すばらしいご指導に時間があつという間にすぎました。がんばります。

♥佐藤先生のご指導、とてもソフトで楽しかったです。土の歌とても身近に感じられました。歌ってそういうものですね。歌っていくほど味が出てくるものですね。(ねずみバーバ)

♥今年の第九が楽しみになりました。素敵な「土のうた」になりそうです。もっともっと練習しなければ…。

♥佐藤先生のご指導、とてもユーモアあり、楽しい練習でした。(アッチャン)

♥作曲者の気持ちを聞いて感動でした。皆で気持ちを一つに歌いたいですね。(日向キルトママ)

♥佐藤先生の指導はとても楽しかったです。

♥作曲者の佐藤先生の直接指導で感激しました。大ホールで全員の歌声を背に歌うと練習途上ですが素晴らしいですね。第九もがんばらねば。

♥本番さながらの練習は例会度は今いちだけ、やっぱりすばらしいものですね。

♥去年とはぜんぜん違う教え方でとてもたのしかったです。

♥素晴らしいご指導、流石でした。頑張ります。

♥佐藤先生のご指導…身にしみて親しみを感じました。今年も良い演奏会になりますことを念じました。(Y.N.)

♥佐藤先生のご指導(特に土の歌)はとても勉強になりました。来て良かった!!(ペコちゃん)

♥土の歌、すばらしい出来上がりになりそうでうれしいです。皆で頑張らしましょうね。(ヨッチン)

♥今年もまた新しい「第九」を感じました。(ドウリンク)

♥今日で2度目で何か出口の解らない迷い道にでも入ったようで不安ですが、とりあえずがんばってみようと思っています。

♥佐藤先生にお目にかかり、とっても楽しい日でした。ありがとうございました。

♥土の歌、本当にいい曲ですね。CDを聴いて感動しました。この歌を歌うことが出来て幸せです。でも覚えられるかしら…心配!(ためき)

♥いよいよ本番。佐藤先生のご指導にこうぶん。汗がしみ出た。頑張ります!(Hamu-Star)

♥とってもわくわくです。やっぱり始まって先生の手引に引張られて曲の中にひきこまれました。

(ミツちゃあ〜ん)

♥体調の都合で遅くなり、客席から練習を聞きました。すばらしい歌声でした。

♥土の歌、佐藤先生のご指導で感激しました。

♥佐藤先生のご指導、やさしく、土の歌がよく分かりました。しっかり練習したい。調子が良く歌えました。

♥こんな壮大な曲を作った先生から直接指導を受けられるなんて、感動だ。やはりひとことひとこと重みがある。(ドリーム)

♣作曲家、指揮者、本当に大先生。ユーモア溢れる大きなお方!ほれますねえ…

♣先生の指揮は矢張り分かりやすく素晴らしい。

♣おつかれ様でした。「土の歌」とても楽しみです。

♣とまどいもあったけど、声は出たと思う。

♣土の歌、佐藤先生はさすが作曲家である。階梯どおり?感情がこめられているたかまって行く、他のパートの皆も聞くこと…CDをもっと聞いて暗譜できるように頑張りたいです。(ヒロ一)

♣心新たにがんばります。(river)

♣佐藤先生のご指導はカルチャーショックでもありました。楽しい時間を過ごさせていただきました。(す)

♣土の歌はなんとかついていけたけど、第九の方は半分もついていけなかった。早く歌う練習が必要と思っています。

♣作曲家自身の棒(指揮)は独特ですね。暗譜しないについて行けませんよ!!(私も早めに暗譜します。)(K.C.)

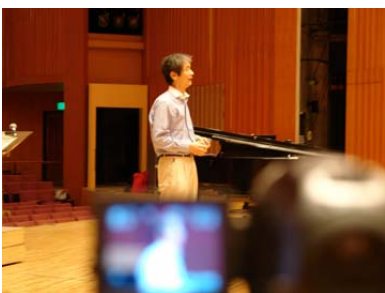
♠佐藤先生の指導でよくわかりました。頑張ります。(HK)

♠土の歌は何かかわったような気がする。第九は何か分からなくなってきたような気もする?(がみchan)

♠昨晩は大変お疲れさまでした。今日も頑張ります。(My Hello)

●編集後記

次回は**10月9日**(月) 13:30~16:30



いったい何年ぶりになるのでしょうか…パートの並びで男性が中心からはずれ男女左右になりました。そのため、この記録はご覧の場所から。

ビデオカメラも遠くなればデジカメも光量が足りませんでした。先生の解説はこのビデオカメラのマイクが頼りですが、記録されている先生のかすかな声をもとに指導を文字にしています。(まわにの皆さんの合唱の声もそれぞれ入っています。特に近くに立っておられた方はステレオですので、その位置関係まで把握できます。あえて書いてしまいましたが、Sさん、相当音がズレています。特訓してください) [【munenori@horita.jp】](mailto:munenori@horita.jp)